

持続可能な未来への道

メーカー各社 SDGs の取り組み

Vol.15

大崎電気工業株式会社

今や、企業の共通言語となりつつあるSDGs。とりわけ、電設資材メーカーとの親和性は高く、2030年までに達成することを目指すSDGs17目標のうち「07:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「08:働きがいも経済成長も」「09:産業と技術革新の基盤をつくる」「11:住み続けられるまちづくりを」「12:つくる責任 つかう責任」「13:気候変動に具体的な対策を」などは、電設資材メーカーの企業活動そのものとも言えます。

そこで、全日電材連賛助会員の電設資材メーカー各社を順番に訪問し、その先進的な取り組みをご紹介します。



大崎電気工業株式会社 概要

本社所在地：東京都品川区東五反田二丁目 10 番2号

創 業：1916（大正 5）年 8 月

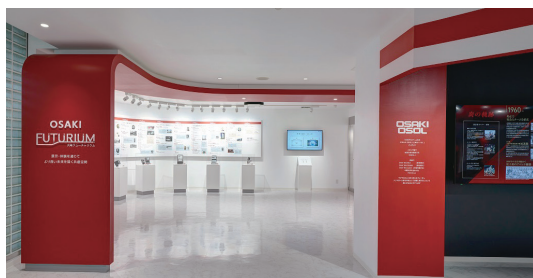
設 立：1937（昭和 12）年 1 月

代 表 者：取締役会長 CEO（代表取締役）渡辺 佳英

従 業 員 数：2,558 名（連結）、542 名（単体）

事 業 内 容：電力量計、計器用変成器、配電自動化機器、
タイムスイッチ、デマンドコントロール装置、
エネルギーマネジメントシステム、自動検針シ
ステム、スマートホーム関連機器、光通信関
連機器、配・分電盤、電力量計の取替工事、
その他電気機械器具の製造販売および工事等

H P : <https://www.osaki.co.jp/>



沿革：大崎電気グループの歴史

1916年 8月 弘業製作所として東京都品川区にて創業

1932年 日本初、熱動過電流しゃ断器を生産、特許取得
本社を東京都品川区東五反田に移転

1937年 1月 株式会社に組織変更

1941年 4月 大崎工業(株)を吸収合併し、商号を大崎電気工業(株)と改称、
計器用変成器をラインアップ化

1949年 当社第1号の電力量計開発

1957年～1961年 1957年6月、本社社屋を鉄筋コンクリート造り2階建てに
建て替え、1961年には本社社屋に3階を増築

1960年～1968年 電力会社との共同出資により、メーター製造会社を設立

1963年 9月 埼玉県入間郡三芳村(現 三芳町)に埼玉工場(現 埼玉事業所)を
建設。操業を開始

1970年 日本初、配電自動化システムによるRC運転開始

1978年 デマンドコントロール装置を商品化、販売開始

1980年 10月 東京証券取引所市場第一部上場(指定替え)

2001年 分電盤内組み込み用電力量計を開発

2007年2月 (株)エネゲートの子会社とする
関西圏の事業基盤強化

2008年 日本初、スマートメーター導入(共同開発プロジェクトに参画)

2009年 5月 地上16階・地下2階 建ての東五反田 スクエアへ本社機能を移し
業務を開始

2016年 8月 創業100周年

2018年 11月 大崎電気ビル1階にオープンイノベーションラボを開設

2022年 4月 東京証券取引所プライム市場へ移行

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



スマートメーターを活用した付加価値 創出とエネルギー・ソリューションの 拡大で環境負荷低減



(文中での敬称は略させていただきます。)

第15回の訪問メーカー様は、1916年創業の百年企業「大崎電気工業株式会社」様です。

創業以来、電力量計やスマートメーター、デマンド監視装置など電力の計測・制御を中心とした製品を供給、主力製品のスマートメーターでは国内トップクラスのシェアを誇っています。

現在、エネルギー関連のさまざまな社会課題を解決する、Global Energy Solution Leaderとなることをグループビジョンに掲げ、事業を展開しておられ、正しくSDGs時代の主役とも言えるメーカー様です。

埼玉県入間郡三芳町の埼玉事業所内にあるショールーム「大崎フューチャリウム」にて、永野寿春エネルギーソリューション部営業推進課長、エネルギーソリューション部営業推進課小城綾夏様、IR広報部の中川真実様の3名からお話を伺いました。



永野寿春
エネルギーソリューション部
営業推進課長

小城綾夏
エネルギーソリューション部
営業推進課

■大崎電気工業の歩み

編集部 まずは、簡単に会社のご紹介をしていただけますか。

永野 当社は1916年に創業、創業以来100年以上にわたって多様な電力計測・制御関連の製品やサービスを提供し続けてきました。中でも、電力インフラのデジタルネットワーク



化のキーデバイスとして導入が進められているスマートメーターの開発にはいち早く取り組み、一般家庭用をはじめ産業用、発電所・変電所向けまで多様なラインアップを開発、提供しています。

近年は、これまで培ってきた計測技術と制御技術を応用したスマートロックシステム「OPENLO(オペロ)」などの新たな分野に向けたサービスの開発にも取り組んでいます。

■SDGs達成目標

編集部 2030年度のSDGs達成目標があれば教えてください。

中川 当社は、事業活動を通じて社会と共に持続的に成長するために優先的に取り組むべき事項を「マテリアリティ」として、5つの分野での目標を定めています。

1. 環境負荷の低減
2. 持続可能なまちづくりへの貢献
3. 人権の尊重
4. 多様性を認め合う職場づくり、課題解決に貢献する人材の育成
5. ガバナンス体制の強化

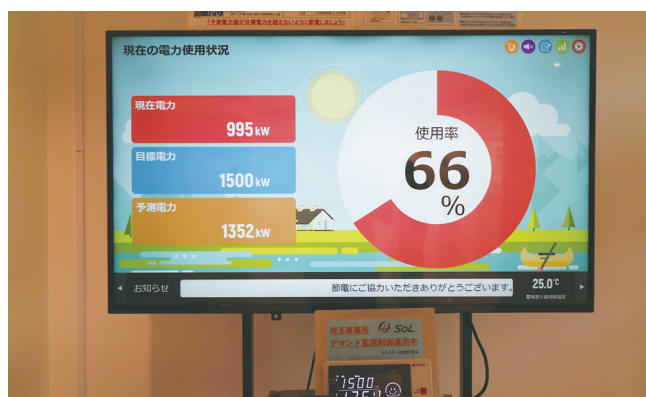
特に、「1.環境負荷の低減」では、「スマートメーターを活用した付加価値創出とエネルギー・ソリューションの拡大」を重点戦略としており、

- ・スマートメーターを使用したエネルギーの効率化 ↓ ※ OSO L など
- ・GX(グリーン)トランスフォーメーション ↓ ※ スマレック

などで自社製品を通じてお客様の環境負荷の低減を目指しています。

※O・SOL……クラウド型エネルギー設備管理システム

※スマレック……太陽光の発電状況・スポット市場の電気料金・蓄電池の充放電サイクルをAIでコントロールするこ



編集部 数値的な目標はありますか。

中川 温室効果ガス排出削減目標でSBTの認定を取得しているほか、「埼玉事業所の再資源化率99.5%以上、揮発性有機化学物質(VOC)排出量0t」など、環境負荷の低減に貢献できるような具体的な数値目標を定めています。

■大崎電気の

SDGsの取り組み

編集部 SDGsに基づいた取り組みやプロジェクト事例を教えてください。

組

中川 社内での取り組みとして、

社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会があり、サステナビリティに関する基本方針、重要課題、リスク及び機会

また、社員向けに独自のSDGS研修も行っており、社員全員に自分達の業務の中でSDGSを意識してもらえようよう受講をお願いしています。さらに、社員向けのイントラネット内にサステナビリティのページを開設し、より身近に感じてもらうよう取り組みを進めています。

今年度からはサステナビリティ推進委員会の下部組織と

して、複数の部署をまたいだ組織「環境推進ワーキンググループ」をつくり、環境に関するテーマ(廃棄物削減、GHG排出量削減、水の保全など)について、サステナビリティ活動の目標設定・管理・施策を推進していく予定です。

編集部 HPを拝見すると、健康

経営や女性活躍の推進など多方面で取り組まれています。

中川 はい、環境だけでなく、人

権尊重の取り組みやダイバーシティの推進、安全衛生、キャリア形成や能力開発の支援、サブライチエーションにおけるサステナビリティの取り組みなど包括的に取り組んでいます。

健康経営については、グループ行動憲章に「健康と安全に配慮した働きやすい職場環境の整備とワーク・ライフ・バランスの実現」を掲げ、社員の健康支援活動に取り組んでおり、2020年から6年連続で「健康経営優良法人 2025

大崎電気 「個が輝く職場環境づくり」 の取り組み指標

指標	2026年度目標	2030年度目標	2024年度実績
社員に占める女性の割合	25.0%	30.0%	22.5%
管理職に占める女性の割合	6.0%	10.0%	5.8%
役員に占める女性の割合	-	-	27.2%
男性の育休取得率	80.0%	100.0%	85.0%
女性の育休取得率	-	-	100.0%
離職率	-	-	2.6%(3年以内)

(大規模法人部門)に認定されています。

編集部 社会面での取り組みは

如何でしょうか。



中川 社会貢献の面で言いま

すと、当社はプロハンドボールチーム「OSAKI OSOL S A I T A M A」を所有しており、青少年向けハンドボール教室や各地域主催のスポーツイベントに参加するなどハンドボールを通じた次世代育成活動を行っています。

また、地域貢献活動も積極的に
行っており、2024年度には小学生・高校生を対象としたハンドボール教室をチーム本拠地である埼玉県内の7校で実施し、約500名の方に参加して頂きました。

豪雨災害の被災地で土砂の撤去作業などのボランティア活動に従事するなど、スポーツを超えた地域支援活動も積極的に行っています。

■商品面でSDGsの取り組み

編集部 商品面でのSDGsの取り組みは如何でしょうか。

小城 当社のSDGs対応商品の中でもデマンドコントロール装置の「スーパーマックス15」をSDGsいちおし商品として掲げています。

電力の使用状況を把握し、契約電力または管理目

標電力を超過させないように

諸設備を効率的に制御運用して合理的な電力使用を行うための装置となり、SDGsの目標としては、「7…エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11…住み続けられるまちづくりを」「13…気候変動に具体的な対策を」などが当てはまります。

編集部 SDGs商材を拡販するための電材卸会社様への要



望は。

永野 ここ埼玉事業所には、2021年に開設した体験型のシヨールーム「大崎フューチャリウム」があり、カタログ等の資料では伝わりづらい利用・設置シーン、製品の大きさや動作などが確認いただけるよう展示しています。

また、勉強会や工場見学も随時受け付けており、電材卸店様に在庫して頂いている製品も多く生産していますので、理解を深めていただけると思っています。

是非とも埼玉事業所にお越し頂き、当社製品に対する理解を深め、お客様へのPRにつなげて頂ければと考えています。

■将来展望

編集部 SDGsの取り組みの将来展望をお聞かせください。

中川 当社は2025年3月に温室効果ガス排出量削減目標

で※SBT認定を取得しました。

大崎電気グループは、主力製品であるスマートメーターをはじめとした製品・ソリューションを通じた温室効果ガスの排出削減に取り組むとともに、自社の事業活動を通じた排出削減を進めています。2030年度目標として、

① Scope 1および2の排出量の総量を2023年度と比較して42%削減

② Scope 3の排出量の総量のうち「購入した製品・サービス」、「販売した製品の仕様」による排出量を2023年度と比較して25%削減を掲げています。

本目標の達成に向けて、ステークホルダーの皆さまと連携した取り組みを推進していきます。

※SBT認定……パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標



SDGs

いちおし
商品

デマンドコントロール装置「スーパーマックス 15」

LAN 接続に対応、
小型・軽量の普及版

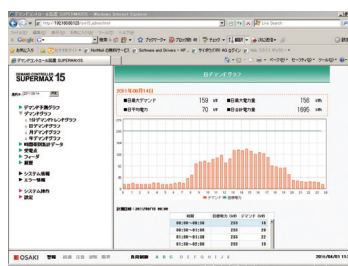


●表示画面例



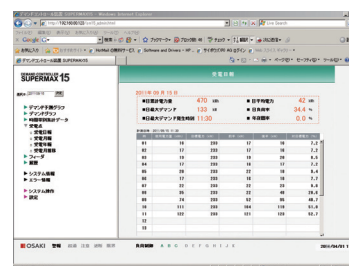
■デマンド予測グラフ

現在のデマンド予測グラフを表示します。更に、参考値として短時間電力のグラフも表示します。グラフ内には、警報ロック時間、複数負荷遮断時間を背景色で表示します。またグラフの右側には、現時限のデータの他、日最大デマンド、日累計電力量、月最大デマンド、月累計電力量の各値が表示されます。



■日デマンドグラフ

1日24時間のデマンドデータをグラフで表示します。グラフの下側には、グラフの数字データを一覧表で表示します。またグラフの上側には、日最大デマンド、日平均電力、日最大電力量、日累計電力量の各値が表示されます。



■受電日報

当日分より、前日報集計時から前正時までの状況、及び切替により前日から1年前までの受電日報データを選択して表示します。

●特長

●LAN や USB メモリが利用可能

LAN 接続で、目標電力の変更、デマンド予測グラフの表示や計測データのダウンロード可能です。また、USB メモリに設定データの読み書きや計測データの読み込みができます。

●時間帯別のデマンド管理やスケジュール制御が可能

時間帯別のデマンド管理機能やスケジュール制御機能を搭載しています。

※スケジュール制御:デマンド管理の負荷制御に関係なく、負荷を ON/OFF する機能。

●パルス検出機能を内蔵

パルス検出器機能を一体化し、付属の専用貫通形 CTパルス検出部により取引用パルスを検出するので、別途パルス検出器の用意が不要です。

※従来形のパルス検出器も使用可能です。

●入出力の増設が可能(オプション)

RS485 出力端末器を増設することで、負荷制御出力を8 回路追加させることができます。また、RS485 入力端末器を増設すると、最大16 点のパルス入力計測が可能です。

会社のお宝 ご紹介！



「OSAKI OSOL SAITAMA」

1960年の創部以来、日本リーグ6回、全日本総合15回、全日本実業団は10連覇を含む15回、新設された全日本社会人（旧全日本実業団）で4回、国民体育大会も24回の優勝を飾るなど、日本ハンドボール界を牽引してきました。2004-05シーズンに全日本実業団、国民体育大会、チーム初となる日本リーグ制覇を成し遂げて「3冠」を獲得。そして2019-20シーズンには国内タイトルすべてを獲得し、念願であったチーム創部初となる「4冠」を達成しました。2024-25シーズンよりクラブOBである小澤広太が監督に就任し、チームスローガンである「Re: OSOL」のもと、チーム一丸となって日本一を目指しています。



「OSOL」（オーソル）はイタリア語で地球の核を意味し、マグマのごとく熱く燃え、ハンドボールをよりメジャーなものに引き上げたいという強い願いが込められています。また「O.S.O.L.」には、英語で「空を飛び、海を越え、大地を駆け回る（Over the Sky, the Ocean and the Land）」という頭文字も合わせています。2024-25シーズンよりチーム名にホームタウンである「SAITAMA」を加え、今まで以上にホームタウンと密接に連携して、地域社会に向けた活動を行っていきます。

